

寒くなったときの処置は？

もしも凍結すると、水が出ないばかりか修理代がかかることも。ここではポイントをまとめました。

実際に処置をする際は、必ず取扱説明書をご覧ください。

対策1



通常の寒さのとき

気温が下がってきたら自動検知。凍結予防ヒーター + 浴槽水や暖房回路をポンプで循環させて凍結予防する方法。(ポンプが回ると「ウーン」と音がして画面に氷が点灯します)

※配管や給水元栓などは予防できません。必ず保温カバーや電気ヒーターで予防してください。

こうしてください

- 浴槽の循環アダプターの上まで、水か湯を残す
- 電源プラグは差したまま(専用ブレーカーも落とさない)
- 給湯暖房用熱源機の場合は、ガス栓は開けたまま

浴槽に水を入れたままでヌルヌルが気になるときは、気温が上がる昼の時間帯に排水し、お掃除を。



対策2



- 低温注意報が発令されたとき
- 外気温が極端に低いとき(-15℃以下)
- 15℃より高くても風があるとき

おふろの給湯栓から水を流し続ける方法。

こうしてください

- リモコンのON/OFFスイッチ(運転スイッチ)を「切」にする
- おふろの給湯栓から水を流したままにする
- 対策1もあわせておこなう



機器の水抜き



- 対策1と2をしても凍結するおそれのあるとき
- 長期間使用しないとき

大寒波が到来しそうなときや、長期間使用しないときは、機器の水抜きをお願いします。

水抜きの方法は → 取扱説明書をご覧ください



凍結した！お湯や水が出なくなったら？



凍結したまま使うと故障の原因に！

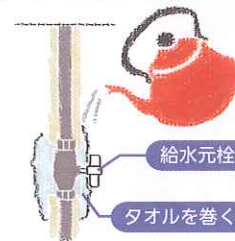
おすすめは、まずリモコンのON/OFFスイッチ(運転スイッチ)を「切」にして(「切」にしないと燃焼する場合があります)、気温が上がり自然解凍するのを待つこと。水が出るようになったら、水漏れがないか確認します。

すぐに使いたいときは

- ①リモコンのON/OFFスイッチ(運転スイッチ)を「切」にする
- ②台所などの給湯栓を少し開ける
- ③機器のガス栓を閉める
- ④給水元栓を回す(閉める)

●給水元栓が凍結して回せないとき

タオルなどの布を給水元栓のまわりに巻き、30℃~40℃程度のぬるま湯をゆっくりかける



給水元栓が回るようになれば解凍できたので、台所などの給湯栓を閉めてください。

※熱湯をじかにかけると配管が破裂するおそれがあります。また、配管以外にお湯がかからないように、くれぐれも注意してください。

●給水元栓が回るのに水が出ないとき

給水元栓以外の場所が凍っています。給水元栓を閉め、自然解凍を待つか、販売店または弊社窓口にご連絡ください。